

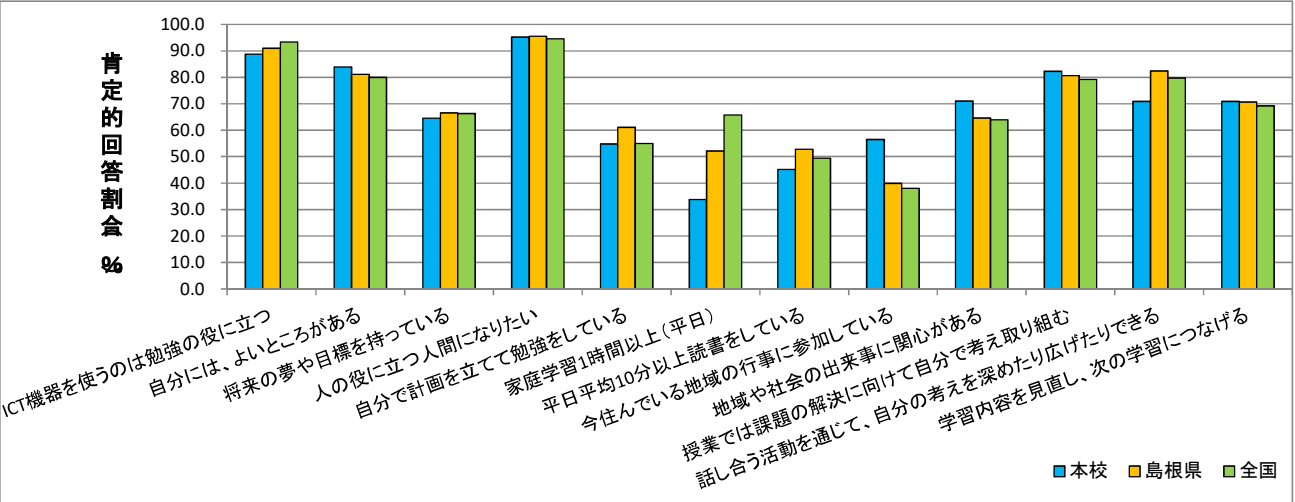
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○選択式の問いの正答率は比較的低くない。無回答率も0%となっている。 ●文章全体を読み、内容を捉えることが必要な問に対して、一部の情報のみで判断し解答する傾向がある。 ●記述式の問題の無回答率が高い。	・問題文で何を問われているのか、解答に必要な情報は何かを、授業の中で丁寧に確認する時間を設ける。 ・求められていることに対して、根拠を明確にして考え、自分の言葉で表現できるように、条件作文などの活動を行う。
数学	○短答式の計算問題については全国平均に近い。 ●説明することが求められるような記述式の問題に対する正答率・無回答率が非常に低い傾向が見られる。 ●数学の基礎知識への理解が断片的であると考えられる。	・既習事項を振り返る機会を日々の授業の中で設けることによって、知識の繋がりを意識づける。 ・授業の中で自分の考えを説明・表現する機会を多く設ける。 ・問題を作成する等、数学を用いて、日常生活における問題解決をすることの良さを実感できる活動を取り入れる。
英語	○聞くことに関する問題、思考・判断・表現に関する問題に関しては県並みの正答率である。 ●学んだ表現を会話の中で使う経験が乏しいと考えられる。 ●問題文を正しく理解せずに解答する傾向が見られる。 ●英文の構成を読み解く力に弱さがある。	・既習事項を使った口頭での表現活動に繰り返し取り組む。 ・問題文の意図を正しく理解する活動を行う。 ・教科書本文の構成を読み取る活動を行う。 ・自分の考えや思いを英語で話したり、書いたりする活動を積み重ねる。

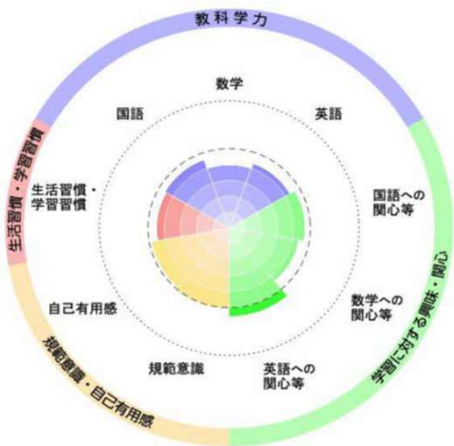
(2)生徒質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○地域と関わろうとする意識が高い。 ○日本や地域のよさを伝えたいという意識が高い。 ○困っている人を助けようとする意識が高い。 ●いじめはいけないことである、という意識が低い。 ●家庭学習時間が、県・全国平均に比べて非常に短い。	・授業や学校生活の中で、自分の考えや気持ちを伝え合いながら問題解決に向かう機会を増やすことで、お互いを尊重する態度を養う。 ・家庭学習(自学)のシステムを各学年の実態に応じて設定しなおす。

(3)生徒質問紙調査結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・教科や諸活動での話し合いにおいて、相手意識をもって根拠を述べることが習慣づける。それによって、一方通行ではなく、双方向のコミュニケーションをとれる力をつけ、お互いを認め合える関係づくりにつなげる。

【受検者数】

58 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。